〔隨　想〕

カタコト隨筆

清水正巳

オーケニ

アメリカ人が遊びに来て、さまざまもてなすと、その都度〃オーケニ〃というのである。始めは、何をいっているのか判らなかったが、やっとしてから、彼は得意になって日本語をつかっているのだと判った。しかもそれは標準の日本語でなくして、方言をつかっているのだと判った。

大阪や京都では〃ありがとう〃を〃おうきに〃又は〃おうけに〃という。それを奴さん、英語の発音で〃オーケニ〃とやるものだから、さっぱり意味が通じない。得意になって日本語をつかっているのに、この日本人、日本語が判らないかなと思ったことであろう。いつか東京で、アメリカ人が霞が関へ行く方向をきこうと思って、途行く日本人をつかまえ、

〃カスミガセキどちらですか〃

ときいたところ、ある男は手をふりながら判らない表情を見せ、ある女は、

〃ワタシ、英語わかりません〃

といって去って行ったという話があるが、それとよく似た話である。

きけば、このアメリカ人はアメリカからまず大阪へつれて来られて、大阪に二三年いたのだという。道理で大阪語をおぼえてしまった。

〃おうけに〃は〃大きに〃であるのはいうまでもない。大阪人は何でも言葉の半分だけいって片ずけてしまう。〃ありがとう〃というよりも〃大きに有がとうございます〃といった方が叮寧である。相手の感じもよい。東京では〃ありがとう〃の方をやってしまう。大阪は〃大きに有がとうございます〃の方をやる。しかしこれは長い。だから〃大きに〃だけやってしまうのである。叮寧であるべき筈のものを途中でへし折って、アタマの方だけいうのである。

大丈夫

アメリカ人の日本語にはとてつもないのがある。

本を持っているので、

〃一寸見せていただきます〃

というと、そのアメリカ人、大きな声を出して、

〃ダイジョウブ〃

というのである。

これも得意の日本語である。が、〃大丈夫〃はこの場合の返答にはならない。彼は、

"Sure"

といいたかったのであろう。その sure は、日本語で〃大丈夫〃というのだと覚えたのであろう。こうなると〃お茶召上りますか〃〃大丈夫〃である。〃又入らっしゃいますか〃〃大丈夫〃である。事実そうだったのである。事毎に〃大丈

夫〃をつかう。誰が教えたのか知らないが、この〃大丈夫〃はなかなかおりそうではない。御本人は間違いのない日本語をつかっているつもりである。

言葉の意味としては sue 又は surely は間違なく〃大丈夫〃である。が、日本ではいうまでもなく、こんな時に〃大丈夫〃とはいわない。本の場合なら〃サアどうぞ〃であり、お茶の場合なら〃いただきます〃である。〃入っしゃいますか〃に対しては〃ゼヒ伺います〃であろう。英語では sure で何もかも片ずけられるが、日本語には一寸そんな言葉は見当らない。臨機応変に、適当な言葉を引出さなければならない。

その点で、日本語はむつかしいといえる。アメリカ人が、その臨機応変に処するいろいろの言葉のつかい分けを覚えるのは大変なことであろう。

口笛

日本には〃まあ……〃だとか〃へえ……〃だとか、〃おやおや……〃だとか感動詞でもって言葉に替えることが屢〻ある。それは外国でも同じことで Oh! と感動詞を発しただけで言葉としては述べないことも屢〻である。

が、口笛を吹いて、それを言葉に替えるということが日本にあるであろうか。口笛は楽しさの表現や、人を呼ぶ合図などには用いられる。が、言葉の代りに口笛を吹いてすませておくなど、きいた事がない。

アメリカ人は〃驚いた〃の代りにヒューッと口笛を吹く。あるアメリカ人が、指環店へ這入っていった。

〃婚約の女に贈るんだが、指環を見せてくれ〃と店員にいった。店員は気の利いたダイヤ入の指環を出してきた。

〃おいくら〃

〃百弗でございます〃

客は驚いた。驚いたが〃驚いた〃とはいわない。軽く口笛をヒュッと吹いた。

店員はニコ〳〵してそれを聴いた。

〃もっと外のを見せてくれ〃

店員はまた別の指環を出してきた。このダイヤは前のより大きい。

〃おいくら〃

すると店員は値段をいわない。いわない代りにヒュッ、ヒュッと口笛を二つ吹いたのである。

如何にもアメリカ人らしい小咄である。日本人には通用しないが、アメリカ人の口笛の意味を知っている人にはよく判る。

すきやき

アメリカ人がよく知っている日本語の一つは「すきやき」である。日本に来ているアメリカ人に、日本の御馳走で何が一番おいしいかと尋ねると、大抵は、

〃スキヤーキ〃

とニコニコして答える。口に合うらしい。

アメリカ本国にも「すき焼店」は沢山出来ている。ニューヨークには日本人の経営で、「都」「末広」などがにぎり、なかなか繁昌している。客は日本人よりもアメリカ人の方が遙かに多い。日本へ行ってすき焼の味をおぼえ、その味が忘れられず、出かけて行くのである。

パンアメリカン・エアラインが、アメリカ本国の人達に見せる〃ハワイ見物〃の宣伝のパンフレットには、〃ハワイへ行けば皆様待望のすき焼が召上れます。〃

とある。それ程すき焼は評判である。もし諸君がアメリカ人を接待よしうと思うなら、すき焼を御馳走するがよい。簡単であって一番喜ぶ。

〃すき焼のことを英語で何といいます〃と私に尋ねた人があったが、すき焼はSUKIYAKIである。日本もアメリカも変らない。今のニューヨークのすき焼店だって、ネオンで色美しくSUKIYAKIと着板に書き出している。

ところで今度はあるアメリカ人が、〃すき焼とはどういう意味か〃と尋ねた。この返答には骨が折れた。

肉を薄くすき取つたものはすき肉である。これを鉄鍋、アルミ鍋等にに入れて、バターで焼いたり、出汁で煮たりして食べるからすき焼である。剝焼の文字を用いるのが本当である。——こういう説明。

明治の始め、文明開化が大流行で、四ツ足を食べ始めた。併し家の中では家が臭くなるというので外で食べた。鋤の上で焼いて食べた。だから鋤焼と書く。——話見たいなこういう説明。

これを語ってきかせると、後の方が面白いということであった。

てんぷら

すき焼に次いで評判のよいのはてんぷらである。お座敷てんぷらなど殊の外喜ぶ。

てんぷらの中では車海老である。日本人にもおいしいが、アメリカ人にもおいしいらしい。このてんぷら屋もアメリカにある。さきにいった都や末広でも、すき焼と共にてんぷらをやっているが、サンフランシスコやロサンゼルスにはてんぷらの専門店がある。

しかし玆では日本人の客が多い。すき焼程アメリカ人の客を呼ばない。日本人は何処へ行っても、てんぷらが何よりお好きということになる。

というのもアメリカには素晴らしい海老料理があるからであろう。太平洋岸にも大きな伊勢海老がいる。アメリカに伊勢海老がいるというのはおかしいが、伊勢海老の種類だから、まあそう云っておこう。日本でも太平洋岸にいるもので、伊勢湾で採れるのがおいしいからそう云うのであろう。東京人は鎌倉海老という。成程江の島あたりでよく海老を食わせる。

アメリカの伊勢海老は日本の伊勢海老と少し違う。日本人とアメリカ人と違う程度に違う。煮ればまっ赤になるのは同じだが、大きさが違う。日本では最大一尺位が、アメリカのは一尺二三寸ある。日本のはハサミが小さいがアメリカのは蟹のように大きい。

面白いのは料理店に海老を食べに行く時である。その大きな海老をお盆にのせ、客に生きている所を見せてから料理場へ持って行く。伊勢海老だからフライにはしない。即ちてんぷらではない。ラヴスター・マヨネーズである。

が、とにかくてんぷらは日本料理として有名である。TEMPRAは英語風のアクセントで読むと英語にきこえる。

キモノ

有名日本語の一つにキモノがある。キモノを知らぬアメリカ人はない。

アメリカのデパートにはKIMONOと書いた売場がある。といって、日本の呉服売場を作っていうんだなと想像しては

いけない。刺繍を加えたシルクの寝巻や、どんすで出来たピジャマや、イヴニングドレスの上に引掛ける紋付羽織や、日本人の着ないキモノである。支那服もある。アメリカ人には東洋のものは日本のキモノでも支那のキモノでも一様にKIMONOである。

有名な日本語は、しかし幾つかある。〃お早う〃もその一つ。〃有難う〃もその一つ。

この〃お早う〃をアメリカ人はどうして覚えるか。これは極めてやさしい。アメリカにはオハイヨ（OHIO）州がある。その州の各前が、日本ではグッドモーニングだと覚えればよい。〃有難う〃も覚え易い。アメリカの鰐はアリゲータ（alligator）と呼ぶ。これを覚えればよいのである。だからどうかすると、得意になって一つ覚えの日本語をふり廻して、〃アリゲータ、アリゲータ〃など云っている人がある。

この外、〃左様なら〃〃今晩は〃などもよく用いられる。

ある日汽車に乗っていた。駅に着いた。あるアメリカ婦人が玆で下車するのである。棚の上に荷物がのっている。それがおろせない。そこで私は立上っておろして上げた。日本人におろして貰ったのだから日本語でお礼を云わないと悪いと思ったのであろうか。婦人は、〃コンバンワ、コンバンワ〃というのである。〃アリガト、アリガト〃というべきを間違えているのである。

〃今晩は……〃

これを上方演芸会で林田十郎と芦の家雁玉の用いる挨拶であるが、上方でも関東でも〃今晩は〃は〃今晩は〃である。

が、東北地方へ行くと〃今晩は〃といわない。〃お晩でございます〃といっている。成程日が暮れたらお晩に違いないが、当り前過ぎて変にきこえる。

けちけち

アメリカの商人は如才がない。日本人の客と見ると日本語をつかう。

〃モシモシ、今日は〃

〃お早う〃

などという。〃おや、日本語が話せるのか〃と思って、喜んで傍へ行くと、日本語はもうそれきりしか知らない。何を尋ねてもベラベラと英語である。

中には怪しからぬ日本語を知っているのがある。商店で品物を見せて貰って、〃だいぶん値段が張るな〃と思い、買おうか買うまいか、思案をしていると、イキナリ私の耳にはいった言葉は、何と、〃ケチケチスルナー〃というのであった。誰か日本人の旅行者が教えたのでもあろうか。

苦笑して、そして爆笑してしまうのであった。

こはま

アメリカの商品に日本語を使っているのはKIMONO位のものであるが、固有名詞に日本の名を用いているものは幾つかある。

ニューヨークのメーカーで、絹製品を発売しているが、この絹製品はコマハ（KOHAMA）と云う名がついている。日本でならカネボウ製品というように。コハマ製品と呼ぶのである。日本では小

浜ちりめんというのがある。これは地名から来たちりめんの名称である。明石上布、伊勢崎銘仙といったようなものである。アメリカの絹製品は小浜ちりめんを使っているわけではないから、コハマの語名がよいために、これを商名にしたのであろう。

とまれ、その昔はゲイシャガール、フジヤーマ、ヨコハーマ位しか知らなかったアメリカ人、――東京は知らなくてもヨコハーマを知っていたアメリカ人――が、今では随分沢山のカタコトを知っている。ケチケチスルナまで知っている人があるのだから、大阪人ならおそらく〃よういわんわ〃とうんざりしてしまうであろう。